

**製品名: MAD1 (リン酸化 Ser428) ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab04966**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000
分子量	

**抗原情報**

遺伝子名	MAD1L1
別名	MAD1L1; MAD1; TXBP181; Mitotic spindle assembly checkpoint protein MAD1; Mitotic arrest deficient 1-like protein 1; MAD1-like protein 1; Mitotic checkpoint MAD1 protein homolog; HsMAD1; hMAD1; Tax-binding protein 181
遺伝子 ID	8379.0
SwissProt ID	Q9Y6D9
免疫原	抗血清は、Ser428 のリン酸化部位周辺のヒト MAD1 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 394-443

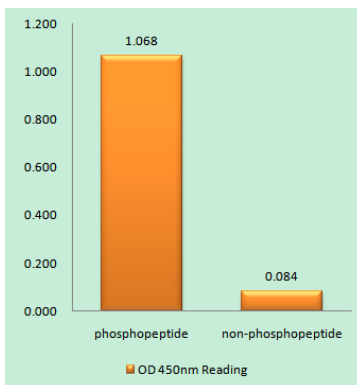
## 背景

MAD1L1は、有糸分裂紡錘体形成チェックポイントの構成要素であり、中期板においてすべての染色体が正しく整列するまで後期の開始を阻止します。MAD1L1はホモ二量体として機能し、MAD2L1と相互作用します。MAD1L1は細胞周期制御と腫瘍抑制に関与している可能性があります。選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq提供、2015年1月]、疾患：MAD1L1の欠陥は、さまざまな種類の癌の発生および/または進行に関与しています。機能：有糸分裂紡錘体形成チェックポイントの構成要素であり、中期板においてすべての染色体が正しく整列するまで後期の開始を阻止します。MAD2L1を未結合の動原体にリクルートする可能性があります。隔壁を正しく配置する役割を果たします。MAD2L1を核周縁部に固定するために必要。誘導：TP53によって増加。PTM：リン酸化；BUB1によって。S期後期からM期、または有糸分裂紡錘体の損傷後に過剰リン酸化される。おそらくATMまたはATRによるDNA損傷時にリン酸化される。類似性：MAD1ファミリーに属する。細胞内局在：有糸分裂の開始から終了まで、拡散した核分布から中心体、紡錘体中間層、そして最終的に中間体へと移動するのが確認されている。サブユニット：ホモ二量体。MAD2L1とヘテロ二量体を形成し、四量体のMAD1L1-MAD2L1コア複合体を形成する。紡錘体チェックポイントによる元のMAD1L1-MAD2L1構造の摂動は、MAD1L1に対するMAD2L1の親和性を低下させる可能性がある。CDC20はMAD1L1とMAD2L1の結合を競合し、結合および/または張力によってチェックポイントシグナルが弱まるまでMAD2L1のCDC20への放出を阻害する。また、BUB1/BUB3複合体およびウイルスのTaxタンパク質とも相互作用する。TPRと相互作用する。組織特異性：G0/G1期には弱く発現し、S期後期およびG2/M期には強く発現する。、

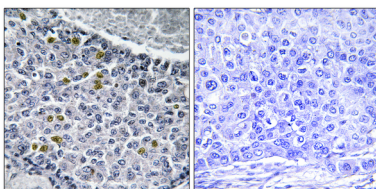
## 研究分野

細胞周期 G1S;細胞周期 G2M\_DNA;

## 画像データ



MAD1 (リン酸化 Ser428) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



MAD1 (リン酸化 Ser428) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。